

<p>課題に対する意見</p>	<p>「スタッフ研修」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自主研修(外部研修など費用を会社が負担して積極的に参加してもらう)</li> <li>・勤続年数によってABCランクに分かれそれぞれのランク別の研修</li> <li>・委員会を結束して各委員会ごとの研修計画を立てて実行する</li> <li>・法定研修(実地指導で必要な研修)</li> <li>・職員交流会</li> </ul>
<p>感想</p>	<p>どこも理念を浸透させることに苦戦をしている。 でもまず指導する側が理念を理解することは大切だと思います。</p> <p>「仕える」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➡日々の祈りを大切に、喜んで利用者に使える</li> </ul> <p>「利用者中心」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➡利用者中心のケアを行い、自立した生活ができるように支援する</li> </ul> <p>「尊敬」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➡利用者の自由と尊敬を守り、ありのままにその人を受け入れ心に寄り添う</li> </ul> <p>「連携」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➡利用者の安心と健康を支えるため、職員間の連携を密にする</li> </ul> <p>「専門性」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➡誰もが安心して生活ができるように、専門性を持って地域社会に貢献する</li> </ul> <p>このキングス・ガーデンの基本方針にとっても感銘と共感をしました。 会社理念のための研修を年に1回行うことは既存職員の再認識につながるためとてもいいと思いました。</p>



第4分科会・・・ 思い出づくりの看取りケア ～事例から看取りを学ぶ～  
(ケアハウス2F会議室)

- ・川口KG 樋野美奈子 「看取りケアに関して、川口キングスガーデンで感じたこと」
- ・筑波KG 池澤泰子 「笑顔の最後に教えてくれたこと～私の成長記録～」

書記・発表：江口直人（練馬キングス・ガーデン）

<p>検討課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看取りの段階でどういう物を食べていただくか。</li> <li>2. 痰絡みの多い方の経口摂取の難しさ。</li> <li>3. 情報がよくわからない方をどのように理解すればよいのか。</li> <li>4. 看取り期にいつまで入浴していただくか。</li> <li>5. 他利用者にも死を伝えるか。</li> </ol>
<p>事例発表</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看取りケアに関して川口キングスガーデンで感じたこと 川口キングスガーデン看護師 樋野美奈子様             <ul style="list-style-type: none"> <li>・経口摂取が難しい方がチョコレートを美味しく食べることができた。</li> <li>・下顎呼吸の方がご家族に付き添われながら入浴できた。</li> <li>・看取り前に東京ドームに行け、看取り中もマグロを食べ娘の踊りが見れたこと。</li> <li>・経口摂取が難しい方が少量のステーキを舌の上に乗せると笑顔になられたこと。</li> </ul>             →日頃からコミュニケーションをよくし安心を与える自然な受け答えこそ重要。 看取りになったからさ一始めようでは遅く、これが最後の〇〇になるかもしれないと考えることも重要。笑顔の追究こそが看取りケアの本髄と思われれます。           </li> <li>2. 笑顔の最後に教えてくれたこと～私たちの成長記録～ 筑波キングスガーデン特養看護師主任 池澤泰子様             <ul style="list-style-type: none"> <li>・筑波キングスガーデンで過去10年で看取りケアを受けた利用者数47名</li> <li>①混乱と受容の時期 「死」は敗北でタブー、エンゼルケアは儀式的、施設での医療は半端な意識 施設でムンテラは行われなかった、拘束をする病院と何をしていてもよいガーデン</li> <li>②模索の時期 生活を守る看護、点滴は入浴・排泄・食事を支配する→治療の点滴以外はしない 嘱託医による医療の限界、誤嚥性肺炎を起こしても口からの摂取を望んだ家族、 エンゼルケアは綺麗に仕上げるのが目的でなく笑って過ごしていた頃に戻すこと</li> <li>③現在 決まり事は設けない、個人として利用者さんに未熟さを受容してもらった</li> </ul> </li> </ol>
<p>（及び、看取り全般に対して） 課題に対する主な意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護保険前の利用者は身寄りのない元気な方が多かった。その方々を一人にさせないようにした。</li> <li>・職員や他利用者によるお見送りは施設ならではと感じた。</li> <li>・家族から近親者の死の告知を相談されたら知らせるように話している。</li> <li>・痰絡みの吸引は熱がある時はしていない。</li> <li>・ヘルパーは痰絡みを見て苦しうだと感じ、Nsは吸引の苦痛がかわいそうだと感じている。</li> <li>・タッピングがだめなら吸引している。</li> <li>・チームケアのタイミングは、変化があった場合に誰かが発信している。皆で認識することが目的。</li> <li>・日々のケアをしながら情報を発見している。</li> <li>・最初の情報を鵜呑みにしないでいろいろ食事を試している。</li> </ul>